

伊方町議会第68回定例会に係る一般質問通告内容

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	1 釣り客のマナーとゴミ問題について	町 長
質問の要旨		
町民のみなさんから釣り客のゴミ問題についての相談をよく受けます。中には釣り客のマナーが悪くファミリー客はオムツを捨てたり、コンビニの弁当容器などを捨て、風が強い日には自宅の前で舞っているという話を聞きました。そういうこともあり、改善しないので、停止線をはって波止場に入るのを制している地域もあるようです。 基本的に海はみんなのものです、漁民のみなさんにとっては生活の糧を得る大切な場所です。 そこでお尋ねします。 ①現在、町内の釣り客のゴミ問題はどのように認識し、また町としてはどのように対策をしていますか。 ②町民の中には条例で定めて罰金をとるとか、車のナンバーを公表してはという意見もありますが、マナーのよい釣り客もいます。話してみると、僕らはつらせてもらってありがたいから、ゴミを拾って帰るんよというのです。当町には環境美化袋もありますし、ゴミを拾ってくださる釣り客には評価をしてあげて、環境美化袋で拾ったゴミのゴミステーションに置いて写メを撮って役場に送ったら、ポイントがもらえ、ポイントに応じて金メダル、銀メダル、銅メダルなどを与えて、それを首からぶら下げていると、町内では優良釣り客として特典が受けれたりするような仕組みができませんか。そのような、優良な釣り客さんの姿をみて、マナーの悪い釣り客も改善したり、お互い注意しあったりも生まれるかもしれません。いかがでしょうか。		

質問者	質問の大綱	質問の相手
田村 義孝 議員	2 海洋ゴミについて	町 長
質問の要旨		
佐田岬半島はご存じの通り三方を海に囲まれておりますから、瀬戸内海では広島のカキ養殖パイプを中心に瀬戸内海のゴミ、宇和海は愛南町や宇和島市など、養殖の一大産地ですのでこのあたりの漁具や発泡スチロールなど、海流の関係でたくさんのゴミが流れつきます。海岸線は県の管轄ではありますが、県も海洋ゴミの撤去には困っているような状況だと思います。現在、八幡浜の海ゴミ回収団体が「海からしか拾えない海ゴミ」を拾ってくださっています。また、団体の意識啓発の活動により、TVでもよく流れますが、町内高浦の御所ヶ浜では陸路からいける場所としては町内最大級の長年堆積した海ゴミが層をなしており、現在では、手ぶらで来てゴミが拾えるように備え付けのボックスには、環境美化袋が入っており、拾ったゴミも捨てれるようにゴミステーションも設置し、定期的に回収する仕組みを作ったところ町内外からたくさんのボランティアさんが来て拾ってくださるようになりました。この場を借りて、改めてお礼申し上げます。 また、八幡浜の海ゴミ回収団体が拾った「真珠養殖ブイ」を使い、当町の町づくり団体が連携して「ブイアート」のワークショップを行い、子どもたちに海の現状を伝えながらアートを通して楽しく「海の現状」を学んでもらっています。この活動は今や佐田岬から全国へ広がり、山形、横浜、和歌山、広島と全国の仲間と連携して意識啓発を行うまでに育ちました。このようにSDGsの14番「海の豊かさを守ろう」を実践しております。 そこでお尋ねいたします。		
① このような現状を踏まえ、海洋ゴミについて、どのように受け止めどのように対策をおこなっているかお答えください。 ② 環境省の事業の中に、「海岸漂着物等地域対策推進事業」という補助制度がありまして、目的は近年、海洋ゴミによる海岸機能の低下や環境・景観の悪化、船舶航行の妨げ等が懸念されている。都道府県や市町村等が実施する海洋ゴミ対策への支援を通じて海洋ゴミの削減を図り、もって海洋環境保全に資する、というものです。 回収・処理事業、発生抑制対策事業・・・補助率 9/10～7/10、さらに、自治体負担分の8割が特別交付税で措置されます。かなりの優遇措置です。このような事業を活用して、官民一体となり故郷の海をきれいにしませんか、いかがでしょうか。		